

寒くなるこれからの季節

水道管にも冬支度！

寒さが厳しくなってくると水道管や水道メータ等が凍結し、水が出なくなったり、破裂したりすることがあります。ちょっとした準備で防ぐことができますので、ご家庭でできる防寒対策を行いましょう。

凍結から水道管を

守るために



メーターボックス内を保温

メーターボックス内に発泡スチロールや布切れ等を入れ、水道メーター等を保温してください。



露出している水道管や蛇口を保温

水道管や蛇口に保温材や毛布等を巻きつけ、水に濡れて凍らないようにその上から隙間なくビニールテープ等でしっかりと巻いてください。



凍結してしまったら



ぬるま湯をかける

凍結して水が出ない時には、蛇口を開けて、凍った部分にタオル等をかぶせ、その上からぬるま湯をゆつくりとかけてください。
熱湯をかけるとひび割れや破裂を起こすことがあるので注意しましょう。



破裂してしまったら

水道管が破裂した時は、メーターボックス内の補助止水バルブを閉めて水を止めます。応急処置として破裂した部分に布かテープをしっかりと巻いて、市指定給水装置工事業者へ修繕の依頼をしてください。



水道料金が増えたら



漏水していないかチェック！

冬は、凍結による水道管の破裂により漏水が発生しやすい環境となっています。「急に水道料金が高くなった」ということはありませんか。このような場合は一度水道メーターをチェックしてみましょう。

家庭内の水道の蛇口を全部閉めて、水道メーターを見てください。この時、メーターのパイロット（銀色のコマ）が回転していれば漏水の可能性があります。お早めに「市指定給水装置工事業者」に修理を依頼してください。なお、地下漏水等については水道料金の減免制度がありますので、水道課または各総合支所経済建設課にお問い合わせください。

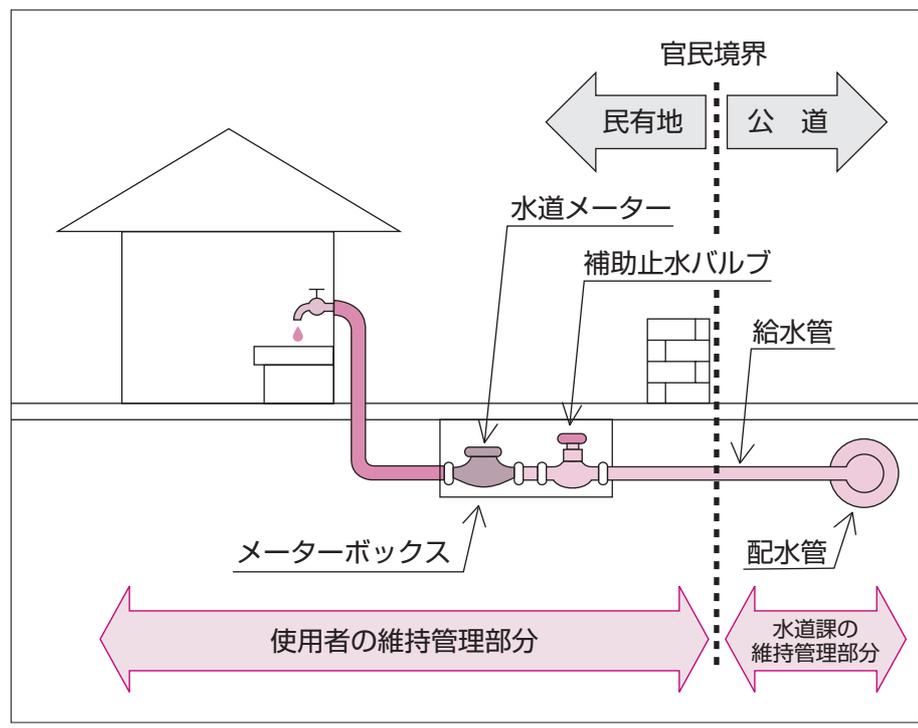
パイロット



給水装置の修理は誰がするの？

道路に埋設している水道管（配水管）から分かれて家庭まで引き込まれた給水管、止水栓、水道メーター、蛇口などの給水用具をまとめて「給水装置」といいます。これら給水装置は、水道メーターを除いて使用者（所有者）の財産となります。給水装

置のうち公道部分については市で維持管理していますが、宅地内における凍結による水道管破裂や老朽化による漏水等の修理費用については使用者（所有者）の負担となります。（左図参照）
漏水は、大切な水を無駄にするだけでなく、ご家庭では思わぬ出費ともなりますので、日頃から凍結防止や給水装置の点検に努めましょう。



問い合わせ

水道課	☎52-0427	建設・上下水道グループ
各総合支所	経済建設課	美和
山方	☎57-6811	☎58-3852
緒川	☎56-3994	御前山
		☎55-2115

人面付土器 『いずみ』修復中！

「いずみ」の修復、終盤へ

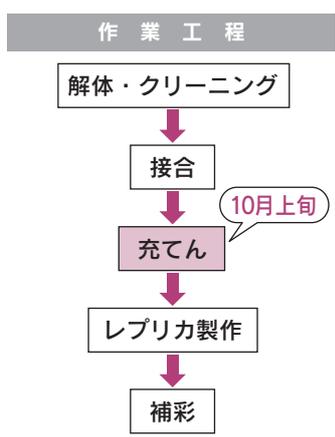
前回お伝えした、土器片のゆがみを微妙に調整しながらの接合作業は、9月下旬にひとまず終了。続いて、磨滅した破片のすき間や、長い間に失われてしまった破片部分に、エポキシ系樹脂を充てんします。土器を汚さぬよう、狭いすき間には、注射器や細い筆を使ってアクリル樹脂を充てんするなど慎重に作業を進め、10月上旬には、人面部との接合部分を除き、ほぼ完了しました。
左の写真は、『いずみ』が古昔に埋められた時、上になっていた面です。押しつぶされたように土器が細かく割れて破片が失われ、大きく穴が空いていて危険な状態でした。



※この修復事業には(財)朝日新聞文化財団より助成を受けています
写真提供・取材協力：府中工房 堀江武史氏

いよいよレプリカ作成の段階へ

修復中の『いずみ』は、人面部分を接合していません。なぜでしょう？それは、レプリカ（複製品）を作成するための作業のうち、人面部内側の型取り作業を行いやすくするためです。内面の型取りが終了すれば、人面部分を胴部に接合してすき間に充てんを施し、接合は完了。外面全体の型取りへと進みます。
現在、充てんした樹脂は乾き具合の違いもあって土器とはずいぶん違う色合いです（写真左）、レプリカの着色と同時進行で、目立たない色合いに彩色を施すとのことです。



歴史民俗資料館 ☎52-1450